

(1) 小中合同主題研究

ア 主題研究テーマ

『地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子どもの育成』
～地域を知る、地域とつながる、地域に発信する活動を通して～

イ 穎田校の現状と研究主題との関わり

(1) 社会の要請と地域の実態から

2020年からの学習指導要領の「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念の実現に向けて、学校と地域が共有し、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが求められている。そこで、穎田小学校では、学校運営協議会だけでなく、様々な学習の場面で地域の方々をゲストティーチャー等として活用し、地域と一体となって子どもを育てる運営を行ってきた（資料1）。平成27年「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について（答申）」（中央教育審議会）には、「未来を創り出す子ども達の成長のために、学校のみならず地域住民や保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、社会総掛かりでの教育の実現を図る」『子どもの成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につながっていくことが期待される（図1）』とされている。



資料1 昔遊び体験 里山を守ろう会との連携

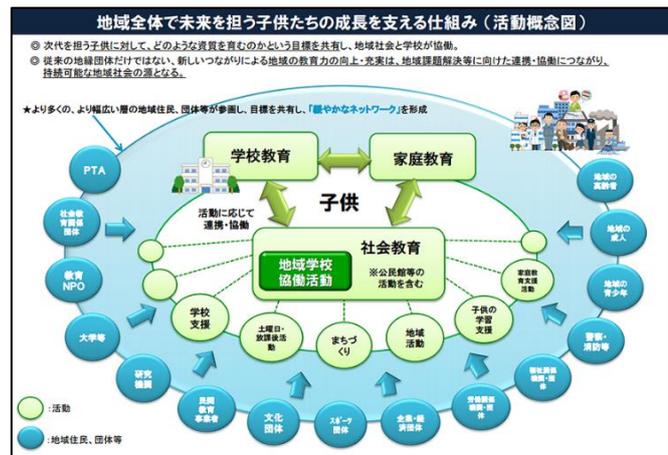


図1 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み

穎田校では、学校経営構想の中に、9年間を通して目指す児童生徒像に「ふるさとを愛し、将来への夢や希望がもてる児童生徒」を挙げている。これまで、地域の方々と出会わせる機会をもつために地域の人材を積極的に活用した「昔遊び体験」等の学習や、地域の様子を調べる「まちたんけん」等の学習を段階的に進めてきた。また、「穎田まちづくりフェスタ」や「地域もりあげ隊」等の学校から地域に出て、地域の方と協働で1つのことを創り上げる活動を行ってきた。しかし、9年間を見通した地域連携学習の系統性を構築することはできていなかった。

(2) 子どもの実態から

令和2年度の児童アンケート(5年生～9年生で実施)の結果が以下の表である(表1)。

令和2年度アンケート 5年生～9年生 201名	肯定的回答	どちらでもない もしくは 否定的回答
「かいた」のまちは好きですか?	121人(60%)	80人(40%)
「かいた」のまちには良いところがありますか?	113人(56%)	88人(44%)
「かいた」のまちのことをもっと知りたいですか?	131人(65%)	70人(35%)
大人になって「かいた」に住みたいですか?	67人(33%)	134人(67%)

表1 令和2年度 地域連携学習に関わる児童アンケート結果

子どもの実態として、『「かいた」のまちを好きである』『「かいた」のまちに良いところがある』『「かいた」のまちのことをもっと知りたい』子どもは、半数を超えている。しかし、実際に大人になって、この町を出たいと考える数が多いことから、地域に対して愛着もあまりなく、魅力を感じていない子どもが多いと考えられる。

そこで、子ども達が「かいた」に愛着をもち、魅力を感じることができるよう、本年度の研究テーマとして、『地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子どもの育成』を設定し、地域について知り、地域とつながり、地域に発信する活動を通して、「ふるさと」に愛着をもち、魅力を知り、地域の未来を担う人材を育成することを目指した。

ウ 主題・副主題の意味

(1) 『地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子ども』とは

『地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子ども』とは、新しい時代の未来を担う子ども達が、地域連携学習で学んだことをもとに、自己の生き方を見つめ、自分・地域の未来を創り出す子どものことである。

(2) 「地域を知る、地域とつながる、地域に発信する活動を通して」とは

「地域を知る、地域とつながる、地域に発信する活動」とは、身近な地域教材において、探究的な活動を設定する。つまり、地域教材を題材にした生活科・総合的な学習の時間の学習中で、「課題を設定する」「情報を収集・整理・分析する」「課題の解決についてまとめ表現する」対象を地域とする学習活動を設定することである。

エ 研究の内容と方法

(1) 視点1 9年間の地域連携学習の中で「地域を知る、地域とつながる、地域に発信する」活動を設定する。

各活動段階における目指す子ども像を以下とする(表1)。

学 年	目指す子ども像
前期 1～4年 「知る」	・学校や地域のことを進んで知ろうとする子。 ・友達と協力し、楽しみながら活動する子。 ・将来の夢や希望をもつことができる子。

中期 5～7年 「つながる」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の探索や地域の人の思いにふれ、地域について考える子。 ・課題を見つけ、他者と協働しながら探究できる子。 ・将来の夢や目標を考え、自分の長所を伸ばすことができる子
後期 8・9年 「発信する」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をよりよくするために考えを発信する子 ・お互いの考えを尊重し合い、主体的に協働する子。 ・自己を知り、自己の生き方を考え、進路を選択することができる子

表2 各活動段階における目指す子ども像

(2) 視点2 地域連携学習を「**颯田の歴史と自然**」「**颯田の産業**」「**颯田の福祉**」で構成する。

9年間の地域連携学習を領域毎に整理することで、系統性のある学習を設定した(図2)。

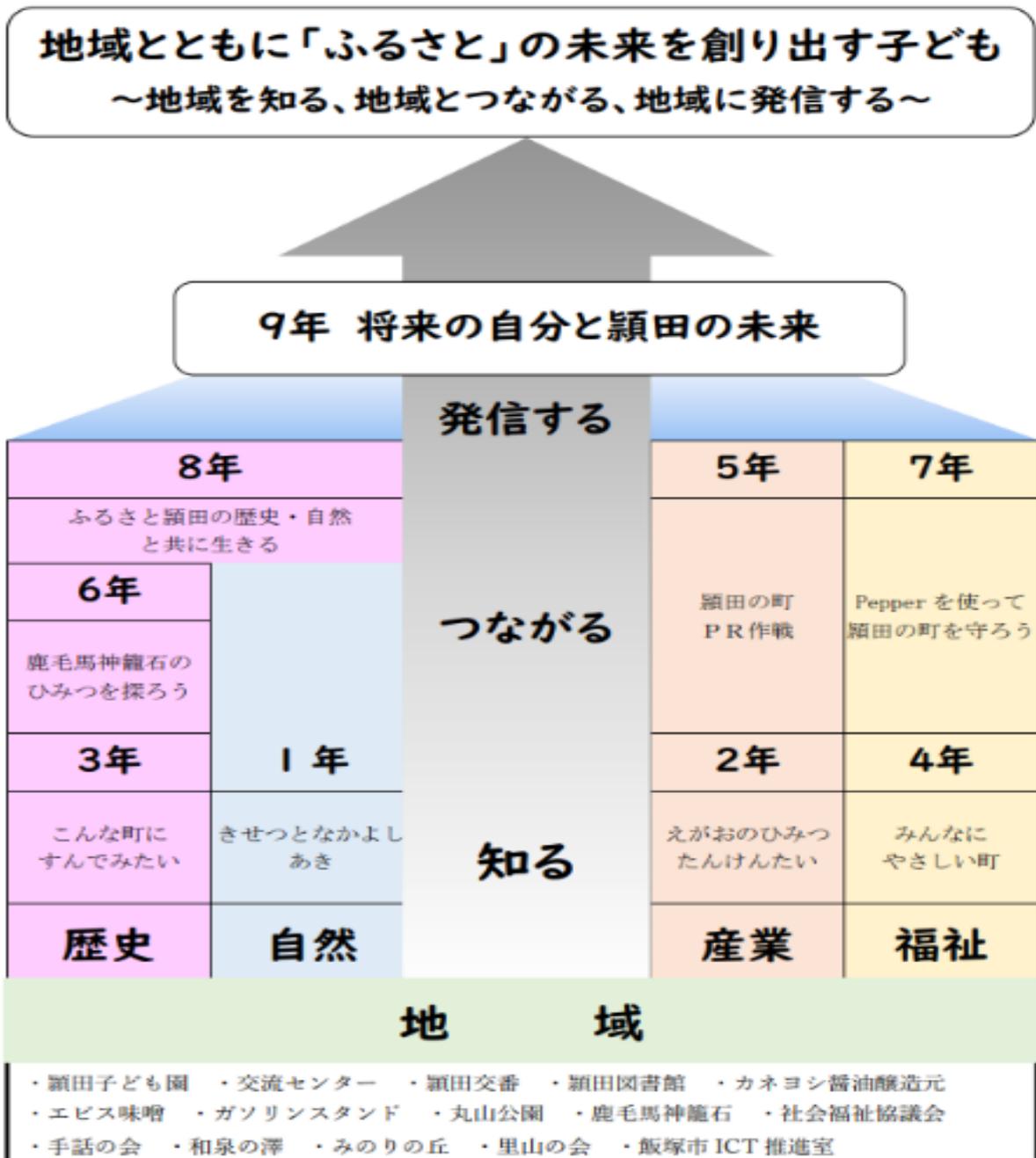
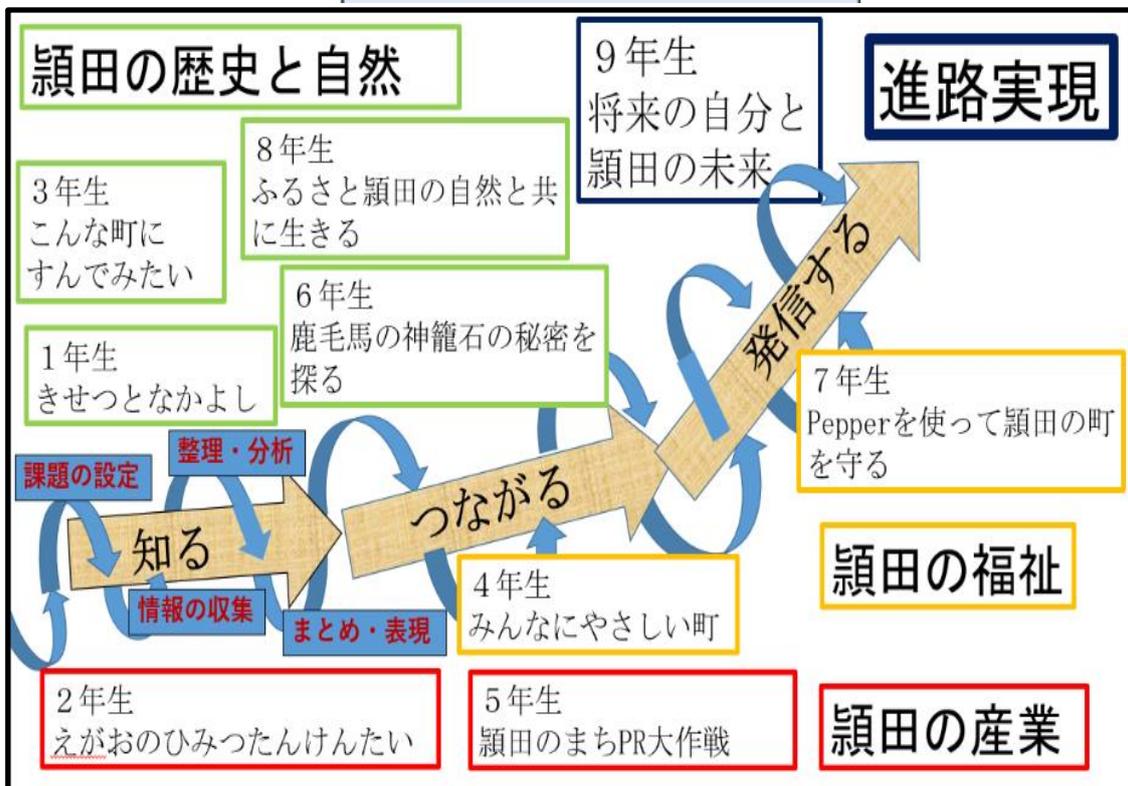


図2 颯田校9年間の地域連携学習の領域

エ 研究構想図

【学校教育目標】
 志をもって意欲的に学び、豊かな心でたくましく生きる児童生徒（かいたっ子）の育成
 か：かしこい子 い：いたわりのある子 た：たくましい子
 【目指す児童生徒像】
 ふるさとを愛し、将来への夢や希望がもてる児童生徒
 自らの考えをもち、他者と協働して、様々な課題・問題の解決を図っていく児童生徒

【研究主題】地域とともに「ふるさと」の未来を創り出す子どもの育成
 ～地域を知る、地域とつながる、地域に発信する活動を通して～



健やかな 体育成部	 中期駅伝大会	 縦割り掃除	 スパイラルタイム	豊かな心 育成部
 あいさつ運動				
 かいた9遠足				
 合同学活				
夢開拓部	小中9年間 地域人間関係の土台づくり			学力向上部